

3 IgA 腎症における第 6 染色体上一塩基多型の解析

佐藤 文則・近藤 大介・成田 一衛
後藤 眞・小川 麻・齋藤 徳子
坂爪 実・宮下 哲典*・桑野 良三*
下条 文武

新潟大学大学院医歯学総合研究科
腎・膠原病内科
新潟大学脳研究所附属生命科学
リソース研究センター遺伝子実験
部門*

【目的】近年欧米の家族性 IgA 腎症の家系で、第 6 染色体長腕 22-23 番の領域に本症との関連が報告された (Nature Genetics, 26: 354-357, 2000). 今回我々は孤発例を含む日本人の IgA 腎症症例でも、この領域に関連を有するか検討した.

【対象と方法】腎生検で診断された IgA 腎症患者 295 例, 非 IgA 糸球体腎炎患者 277 例, 健常者 271 例を対象として第 6 染色体長腕 22-23 番の領域においてマイクロサテライト多型による関連解析を行った. さらにマイクロサテライトマーカー D6S1040 付近において, さらに詳細なマイクロサテライト多型による解析と, 一塩基多型 (SNP) による関連解析を行った.

【結果】マイクロサテライト多型による解析では, 家族性 IgA 腎症の報告と同様に D6S1040 で有意な関連を認めたが, 周囲のマーカーでは明らかな関連は認められなかった. D6S1040 付近 1020kbp における 24 個の SNP を用いた解析では, 4 個のハプロタイプブロックのうち 1 つで, 患者対照間でのハプロタイプ頻度に有意な偏りを認めた. この領域には, 新規の遺伝子 KIAA1798 が位置しており, IgA 腎症の発症にこの遺伝子が関与する可能性が考えられた.

【結論】日本人の IgA 腎症症例においても第 6 染色体長腕 22-23 番領域の関連が示唆された.

4 Fc γ RIIB 遺伝子多型と歯周炎感受性との関連性

安田 桂子*・杉田 典子*
小林 哲夫*, **・山本 幸司*
吉江 弘正*

新潟大学大学院医歯学総合研究科
摂食環境制御学講座歯周診断・再
建学分野*
新潟大学医歯学部総合病院歯科
総合診療部**

免疫グロブリン (IgG) に対する低親和性の受容体である Fc γ RIIB は, 1q23 に位置し, 細胞内に抑制性アミノ酸モチーフを持っている. Fc γ RIIB は主に B 細胞に発現し, Fc γ RIIB と細胞膜上に存在する B 細胞抗原レセプター (BCR) との間が IgG 免疫複合体で架橋されると B 細胞の活性化が抑制される. また歯周炎患者の歯肉結合組織中に Fc γ RII を発現する CD19⁺ B 細胞が認められることから, Fc γ RIIB の歯周炎への関与が示唆される. そこで, これまで報告されていないヒトの Fc γ RIIB 遺伝子上の塩基変異の有無を検索したところ, Fc γ RIIB 特異的遺伝子多型が計 11 部位認められた. さらに発見した遺伝子多型と歯周炎との関連性について検討を行ったところ, 侵襲性歯周炎は膜貫通領域である exon5 に存在する Fc γ RIIB-232T アレルが多いこと, 慢性歯周炎は Intron4 の nt 646-184A アレルが多いことが判明した. 以上のことから, Fc γ RIIB 遺伝子多型は日本人における歯周炎に関与する可能性が示唆された.

5 孤発性純粋タウオパチーとタウ遺伝子領域の関連

高野 弘基・西澤 正豊・小野寺 理*
柿田 明美*・高橋 均**
新潟大学脳研究所神経内科
同 生命科学リソース研究センター*
同 病理学**

【背景】進行性核上性麻痺 (PSP), 皮質基底核変性症 (CBD), 前頭側頭葉型痴呆 (FTD) はタ